

第120回 日本小児科学会報告

2017. 4/14-16 東京



★インフルエンザワクチン：2014-15の成績からは1-2歳の効果が高かったことが示された。3歳から12歳も有効率は50%を超えていたが、1歳未満、中学生以上の有効率は12歳未満に届かなかった。重症化を防ぐ効果はある。1歳以上は、どの年齢層も推奨される。

1960-94は学童集団接種が行われていた。中止になってからインフルエンザ脳症が増えた。タミフルが2000年に登場してからは、発熱期間、入院例が減少した。下気道感染防止効果があったものと思われる。2009年の新型インフルエンザでは、ワクチン不足にもかかわらず、タミフルのおかげで死亡数は世界的に最低レベルであった。

こうがいへんとうひだい
★口蓋扁桃肥大：7歳がピーク。その後改善することが多い。呼吸障害をひきおこす時や感染の巣となる時は、必要なら扁桃摘出術を。

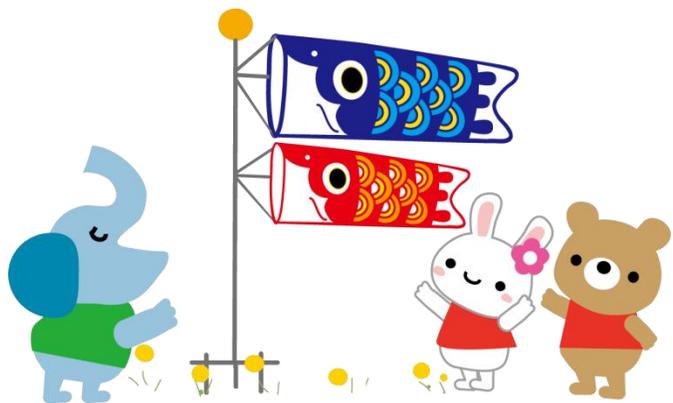
ちゅういけっかんたどうせいしょうがい
★ADHD(注意欠陥多動性障害)：男児に多いが、加齢とともに男女差がなくなってくる。チックを合併することもある。コンサータはチックには禁忌と言われていたが、実際にはチックを悪化させていない。新薬(グアンファシン)が現れ、効果が期待される。

2歳前後から自閉症スペクトラム障害の診断に役立つ M-CHATというツールがあります。当院でも開始いたしましたので、ご心配な方はご相談ください。

★小児の片頭痛^{へんづつう}：大人と違い、半数以上は4時間以内。2時間以内のこともある。拍動感は、はっきりしないことがある。両側性のこともある。動くと悪化する。治療は、まずアセトアミノフェンかイブプロフェンが基本。月に2回以上生ずる場合は薬物予防投与の適応になる。ブルーライト、スマホなどが悪化因子。

★小児ピロリ菌の診療(中学生)：佐賀県では中学生に検診をしている。抗体検査をして、陽性者には除菌（PAC療法もしくはPAM療法）する。感染源は母70%、父10%など。こどもがピロリ菌陽性の場合、親も検査した方が良い。

★乳児血管腫(莓状血管腫)^{にゅうじけっかんしゅ いちごじょうけっかんしゅ}：内服薬（プロプラノロール）が販売になった。早期に服用を開始した方が、治りが早い。



平井こどもクリニック